

# 平成28年度 事業計画

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会

## 1. 基本方針

平成27年度介護報酬改定後、認知症対応型共同生活介護事業所を巡る環境は一層厳しく、地域包括ケアシステムの構築に対応すべく、地域とのさらなる連携を踏まえ、次の介護報酬改定を見据えた対応を検討していかなければなりません。この環境の中、本協会は認知症対応型共同生活介護事業入居者の尊厳の保持と自立支援のための取組を継続して行います。

具体的には、認知症対応型共同生活介護、いわゆるグループホームが平成9年に誕生して以来、ほぼ20年の歳月が経ちました。その歳月は、認知症ケアにとって、めまぐるしい変革の歳月でもありました。今まさに認知症ケアがグループホームのみならず、あらゆる場で取り上げられ議論がなされ、認知症ケアがなされてきている時代に、認知症対応型としての認知症ケアの在り方が問われてきています。

今、グループホームのなすべきことのひとつは、その認知機能の低下により、うまく生活と折り合いが持てなくなることにより起こってしまうあらゆるズレ（不適応な状態）に対して、生活をベースにしっかりと向き合える仕組をさらに充実させていくこと、もう一つは、認知機能の低下に伴う進行により起こる状態に対してノンバーバルなコミュニケーションが必要な方々へのケアを充実させていくこと、さらにもう一つは、身体的な機能低下、疾患的な症状の進行に伴う終末期における緩和ケアの実践を充実させていくことなど、認知機能の衰退に伴う総合的な支援が継続的に展開できる場とスペシャリストの育成が、グループホームの本来の目的を全うするためには必要不可欠な点であると考えます。

また制度的な視点で捉えますと、地域密着型サービスの一つとして、地域における支援の充実も必要です。それには、地域包括ケアシステムにおける共同生活支援の存在意義を、グループホームの持つケアマネジメント機能も含めた多様性と多機能性を大いに地域に還元すべきと考えます。同時に、医療と連携することにより最後まで支援する機能も持っていますので、訪問看護や在宅医療の協力、連携をさらに充実させる事によって、最後まで生を全うする選択も可能になっています。これらグループホームが果たしてきた役割と責任をさらに発展的に地域の中で発揮できるようにすることで、より専門性が高く個々の有する能力に応じた支援の提供と、それを支える体制づくりをサポートする研修・セミナー等を実施するとともに、サービスの質の向上と組織・事業所運営の参考となる調査研究・報告を行い、介護報酬の意義とエビデンスに据えて、本報酬はもとより、加算も視野に入れた報酬の増額と制度の改善をするべく提案を積極的にすすめて参ります。その実現に向けて、各会員施設及び各関係団体と積極的に連携し、下記の具体的な重点項目として掲げ協会の運営に携わって参ります。

## 1) 具体的な重点項目

### ① 制度の質を高めるための会議・各種委員会の設置

国が掲げている新オレンジプラン・地域包括ケアシステムの構築の中で、認知症に特化したグループホームの存在価値をさらに高め、グループホームにおける未来に向けた発展的な変化を考え、その機能の多機能化を提言し実現させてゆく活動を通して、制度及び介護報酬の改善の実現に向けて、入居されている方々の尊厳を保持し、例え1ユニットであろうが地域住民、国民に必要とされている事業所を守るため、会員事業所個々それぞれが自立した健全な運営が行えるよう提言していきます。

(具体的実践項目)

- ・総会、業務執行理事会及び理事会、各種委員会における活動を通して、制度及び報酬の改善に向けた関係省庁・道・市町村への提案若しくは提言等を協議します。
- ・会員個々の事業所への基礎アンケートやタイムリーに行うアンケート等を活用し、会員個々の意見を尊重し、提言に反映していきます。
- ・事業所運営に関わる各種情報や各種委員会の活動の内容など、協会活動が見えるように、またはタイムリーに反映されるようにホームページ等のソーシャルネットワーク又はFAX通信を活用し、情報の提供に努めます。
- ・全国グループホーム団体連合会（制度政策委員会）など、関係機関とも共同した一体的な活動を通して、常に同調した積極的な運動を展開します。

### ② 支援の質を高めるための各研修会の実施

パーソンセンタードケアの実践、入居者の思い、願い、人生の物語を大切にし、あたり前の暮らしを最期までをスローガンに、認知症の状態にある方の生活を支援する専門職として、地域とつながって共同生活を組み立てる事ができる人財（スペシャリスト）を育みます。

(具体的実践項目)

- ・協会の主催する各種自主研修及び認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修、認知症対応型サービス事業管理者研修、認知症介護基礎研修等を行います。
- ・モデル事業で行っている認知症グループホームの相互評価事業（評価項目334項目）を通して、グループホームの本来の在るべき姿を、一日も早くすべての会員事業所が取り組むことができる仕組みにし、そのデータの集積をもって、制度の提言及び介護報酬の改善に向けた提言に繋げていきます。
- ・会員事業所における認知症支援のスペシャリストとして、生活をベースとした認知機能への支援、認知症の進行に伴う緩和ケアの実践、そして終末期におけるターミナルケアの実践など、各身体別、症状別、疾患別など総合的な支援が継続的に展開できる場とスペシャリストの育成を目指します。

### ③ 運営の質を高めるための諸課題へ向けた取り組み

社会の情勢や変化による様々な課題（介護報酬の削減、人材難、虐待や身体拘束、不適切なケア、介護報酬の不正受給など）に直面しながらも、しっかりと諸課題と向き合い、地域に役に立つグループホーム運営を目指します。

（具体的実践項目）

- ・制度上義務付けられています、自己評価、外部評価の在り方も含めて、地域の中での互いの事業所間の連携と研鑽、更にはグループホームの本来の役目を認識するために、相互評価のモデル事業を推進します。
- ・DVD「グループホームのしごと」等を活用し、グループホームの具体的な理解を積極的に進めて行くことによって、地域における人材の確保に繋げ、会員事業所の人手不足の解消に努めます。
- ・各10ブロックの代表者等と意見交換できる機会を設け、各種人材確保に関する助成金の活用や介護報酬における介護職員処遇改善加算の取得状況など、様々な情報を交換することにより、職員の給与の向上と職場環境や待遇の向上の実現に向け、制度や報酬改善に向けた意見の収集に努め、関係機関への提言に積極的に取り入れ進めます。
- ・会員事業所において長年勤務しておられる職員の方々の労を讃えるために、10年を越える方を対象に永年勤続表彰を行います。

### ④ 地域の質を高めるための地域と共同した活動

認知症の支援のための地域づくりを担えるグループホームとして、地域密着型サービスの保険者の理解を得るため、運営推進会議などを通じて、各会員個々の事業所が直接伝える場や機会を習慣化し、制度の活用を促してゆくことも必要であると同時に、会員事業所が地域に向けた認知症に関する相談窓口を設置するなど、これまでのケアの集積を活用した具体的な活動を促進していきます。

（具体的実践項目）

- ・共用デイ、ショートステイなど、居宅を拠点としたグループホームにおける加算の活用地域の支援も含めたケアマネジメント能力が活かされる仕組みの提案をしていきます。
- ・それぞれの地域における、模擬訓練、認知症カフェ、相談窓口などを有効に活用し、そのコーディネートする能力をさらに高め育むことにより、多職種及び異業種とのイノベーションも意識した地域の認知症支援の質の向上につなげ、地域拠点としての存在価値を高めていきます。
- ・全国グループホーム団体連合会の実施しているグループホームにおける地域支援相談員の養成研修を、北海道認知症地域コーディネーターの事業と位置付けるための準備を整えます。

⑤ リスクマネジメントの質を高めるための備えの啓蒙活動

常に起こり得る災害だからこそ、日頃からの備えとして、地域と連携し防災拠点としての意識を高め、地域に密着した地域防災支援の実施を推進します。

(具体的実践項目)

- ・全国グループホーム団体連合会で作成された『防災ガイドBOOK(震災対応編)』を活用し、自分の事業所の所在している場所の理解など、万一の災害に対応して事前の備え及び災害時の行動について、防災ガイドを有効に防災への備えを充実させていきます。
- ・地震、津波、原発事故、火災、介護現場における事故など、リスクに対する予防のため、入居者の生活の保持と会員事業所それぞれのリスクマネジメント力が高まる情報の提供など、予防や備えの観点から、おせっかいネットワークの予算を活用し、積極的に活動してまいります。

上記の具体的な重点項目の実現に向けて、協会の各委員会活動及び各種事業を具体的に実践展開して参ります。

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会  
会 長 宮 崎 直 人

## 2. 役員会・組織運営等に関する事項

### 1) 「総会」(年2回)「理事会」(年2回程度)の開催

社員総会(定時・臨時):平成28年5月26日、平成29年3月の他、必要に応じ開催する。

理事会:上記総会前及び必要に応じ随時開催する。

### 2) 「業務執行理事会」(年3回程度)の開催

正副会長をはじめ、業務執行理事等の共通理解・共通認識を深め、活動方針の確認・調整等を行うため、必要に応じて随時開催する

### 3) 「総務委員会」(年6回程度)の開催

組織運営に関する諸課題及び後述記載事業内容に対応する。

### 4) 「事業委員会」(年6回程度)の開催

お年寄りにやさしい地域づくりとブロックの活性化につなげてゆく継続的な活動を目的とし、後述記載事業内容に対応する。

### 5) 「研修委員会」(年4回程度)の開催

認知症の方がその有する能力に応じて自立した生活を営むことができるよう、介護サービスの充実を図ることを目的し、後述記載事業内容に対応する。

### 6) 「北海道認知症コーディネーター委員会」(年4回程度)の開催

北海道認知症地域コーディネーター養成講座の修了者に、その相互の連携と智恵と力の結集で、未来のブロック活動(地域活動)及び、当協会の運営を担っていただくことを目的とし、後述記載事業内容に対応する。

### 7) 「グループホーム相互評価事業推進委員会」(年6回程度)の開催

グループホーム相互評価事業の実施に向け、委員会を設置し後述の記載事業内容に対応する。 ※研修委員会担当

### 3. 総務委員会事業

1) ホームページの編集・更新

内容：行政通知等各種資料・研修会案内・各種調査研究報告等の会員への情報提供

2) 各ブロック事務局支援

内容：各ブロック事務局へのブロック事務費の支援  
ブロック事務局会議の開催（年1回）

3) 永年勤続表彰

内容：10年以上勤務した会員10年ごとにその職員の労をねぎらい表彰

4) 会員証の発行

内容：新規入会した正会員に対して、会員証を発行

5) 情報提供

内容：FAXや郵送にて、行政通知等各種資料等の会員への情報提供を行う

## 4. 事業委員会事業

### 1) 広報誌の発行

平成28年8月（第14号）8月発送、平成29年3月（第15号）3月発送

目的：各ブロックの活動や協会の事業活動、考えなどを活字情報を通して、会員に広く伝達されGHの発展に繋がることを主な目的としている。

### 2) 実践研究大会の開催（釧路市）

目的：日々介護サービスの向上のため、私たちにできる事は何か常に考えながら様々な取り組みを行っている。多くの参加者が事例を発表することで、内容の自己点検、きづき、現状等への再確認ができる。制度や地域の状況、考え方の差異などの確認ができ、その個別の内容を全体で共有する事によって、一歩前進したケアへのヒントになることを期待するものである。

対象：職員、地域住民

### 3) 地域づくり（SOSネットワークフォーラム等）支援

目的：認知症などの理解を深め、地域との連携の強化構築の認識を共有し、認知症の人や家族も安心して暮らせるやさしい地域づくりにつなげてゆく為の後方支援をするものである。

対象：全ブロック、地域住民

### 4) 個別アンケート（事業所基礎調査）

目的：事業所の基礎的な調査及び時勢の必要な調査などを行い、より良い利用者サービスの健全性の確保、及び向上発展させるための活用を目的とする。

対象：グループホーム全事業所

### 5) 助成事業

各ブロックへ研修会等の開催のために助成金（1ブロック10万円以内）の支援

ブロック	事業名	会期予定	講師名
札幌	癒されませんか?Part4 研修	8月26日	吉川 よしひろ 氏

			五十嵐 教行 氏
道央	新人・中堅スタッフスキルアップ研修 (権利擁護編)	5月10日	石川 秀也 氏
	チームケアの向上のための伝達方法	9月14日	釜谷 薫 氏
後志	「ケアプランに基づく記録の方法」研修	9月16日	小林 大祐 氏
空知	地域福祉の調査研究に関する研修会	12月	調整中
道南	計画作成者研修会	12月6日	釜谷 薫 氏
日胆	実践者研修修了者フォローアップ研修	11月11日、12日	宮崎 直人 氏 釜谷 薫 氏 吉田 恵 氏
十勝	もう一度グループホームの役割を考えよう研修	9月16日	宮崎 直人 氏
道東	認知症基礎研修	10月28日	佐々木 幸子 氏
道北	高齢者虐待はなぜ起こるのか	4月	石川 秀也 氏
オホーツク	認知証介護研修	6月23日	村越 洋子 氏

※助成事業にて開催される研修は全て参加費無料

#### 6) グループホーム啓蒙活動事業

平成27年度に作成したDVD「グループホームのしごと」を使用し、ブロックにて上映会などを行い、将来介護の仕事に就きたい方々へのプレゼンテーションや、グループホームの仕事の大切さや魅力などを広くお伝えいただき、グループホームにおける安定的な人財の確保はもちろんのこと、認知症を持つ人の理解啓蒙活動を行う。



## 5. 研修委員会事業

### 1) 自主研修会の開催

#### ①認知症介護実践者研修及び認知症対応型サービス事業管理者研修

項目	内容
開催予定日	第1回 実践者 平成28年 5月17日（火）～平成28年 6月14日（火） 管理者 平成28年 6月14日（火）～平成28年 6月15日（水） 第2回 実践者 平成28年 6月21日（火）～平成28年 7月19日（火） 管理者 平成28年 7月19日（火）～平成28年 7月20日（水） 第3回 実践者 平成28年 9月 6日（火）～平成28年10月 4日（火） 管理者 平成28年10月 4日（火）～平成28年10月 5日（水）
開催場所	第1回 札幌 第2回 旭川 第3回 苫小牧 (開催地ブロックの運営協力)
参加定員(各回)	実践者：80名 管理者：40名
参加費	会 員：実践者研修 20,000 円、管理者研修 10,000 円 実践者研修・管理者研修をつづけて 25,000 円 非会員：実践者研修 30,000 円、管理者研修 20,000 円 実践者研修・管理者研修をつづけて 50,000 円 ※ 実習謝金は、受講生より実習施設へ直接支払い

#### ②認知症介護実践リーダー研修

項目	内容
開催予定日	第1回 平成28年 9月26日（月）～平成28年11月21日（月） 第2回 平成28年10月24日（月）～平成28年12月19日（月）
開催場所	第1回 旭川 第2回 札幌 (開催地ブロックの運営協力)
参加定員(各回)	40名
参加費	会 員：30,000 円 非会員：60,000 円 ※ 実習謝金は、受講生より実習施設へ直接支払い

#### ③自主研修シリーズ I

##### 「グループホームにおけるケアについて (仮)」

項目	内容
開催予定日	平成28年 7月 5日（火）～6日（水）
開催場所	札幌
講師	宮崎 直人 氏（介護支援専門員、社会福祉主事、認知症介護指導者） 武田 純子 氏（看護師、認知症介護指導者）

参加定員	100名
参加費	会 員： 5,000 円 非会員： 10,000 円

④自主研修シリーズⅡ「アセスメントとケアプラン」

項目	内容
開催予定日	平成28年11月24日（木）～25日（金）
開催場所	札幌
講師	釜谷 薫 氏（看護師、介護支援専門員、認知症介護指導者 等）
参加定員	100名
参加費	会 員： 5,000 円 非会員：10,000 円

⑤自主研修シリーズⅢ「グループホームで看取る」

項目	内容
開催予定日	平成29年 1月28日（土）～29日（日）
開催場所	札幌
講師	長尾 和宏 氏（医師 長尾クリニック院長） 釜谷 薫 氏（看護師、介護支援専門員、認知症介護指導者 等） 西塔 昭代 氏（介護福祉士、介護支援専門員 等）
参加定員	150名
参加費	会 員： 5,000 円 非会員： 10,000 円

⑥認知症介護基礎研修

項目	内容
開催予定日	第1回 平成28年12月 1日（木） 第2回 平成29年 2月21日（火）
開催場所	札幌
講師	第1回 宮崎 直人 氏（介護支援専門員、社会福祉主事、認知症介護指導者） 第2回 釜谷 薫 氏（看護師、介護支援専門員、認知症介護指導者 等）
参加定員（各回）	50名
参加費	会 員： 5,000 円 非会員：10,000 円

2) ブロック事業（開催地ブロックによる運営）

各ブロックの研修会等の開催のために後方支援を行う

ブロック	事業名	会期予定	講師名	参加費
空知	認知症の症例別に対応した支援研修	6月	調整中	会 員：2,000円 非会員：2,000円
	介護記録の書き方研修	12月	調整中	会 員：2,000円 非会員：2,000円

### 3) グループホーム相互評価事業

札幌ブロック、道央ブロック、日胆ブロック、道北ブロックの正会員事業所にてグループホーム相互評価モデル事業（334項目）を実施

実施内容（予定）：  
 相互評価調査員研修 → 自己評価 → 相互評価（現地調査）  
 → 自己評価（2回目） → 相互評価（再現地調査）

## 6. 北海道認知症コーディネーター委員会事業

### 1) コーディーカーフェ (年4回)

主旨及び目的 : 北海道認知症地域コーディネーター養成研修修了者を対象とし、コーディネーター個々のスキルアップと共に、それぞれの地域においてそのニーズに適切に応えられる力を身に付け、実践して行く力を育む。

項目	内容
開催予定日	未定
開催場所	札幌
参加定員	40名
参加費	500 円

### 2) お持ち帰りワークショップ

主旨及び目的 : この研修では、参加者がグループワークを実践し、さらにその手法等を学び、必要な書式等一式をお持ち帰りいただき、それぞれの事業所において実際に還元できる、実践して行けることを目的として開催いたします。

項目	内容
開催予定日	未定
開催場所	札幌
参加定員	60名
参加費	会 員 : 5,000 円 非会員 : 10,000 円

## 7. おせっかいネットワーク

災害支援ネットワーク組織にて連携を図り、災害時に備え予算を計上

## 8. 関係機関および団体等との連絡調整

### 1) 全国グループホーム団体連合会の積極的活動の参加

- ①団体会員として加盟  
役員として理事2名を選出
- ②定期総会（年1回）への参加  
平成28年5月15日（日） 開催場所 東京都 予定
- ③全国代表者会議（年3回程度）  
各加盟団体の代表者1名選出
- ④理事会への参加（年3回程度）  
北海道ブロックとして2名の理事を選出
- ⑤三役会への参加（年数回程度）  
当協会代表者が役員（代表）として選出
- ⑥厚生労働省との連携  
厚生労働省担当部局との連携調整し、制度及び介護報酬等の提案を積極的に協議する機会を設け参加
- ⑦全国フォーラムの開催（年1回）への参加  
平成28年11月4日（金） 開催場所 茨城県水戸市
- ⑧全国グループホーム団体連合会事務業務への協力

### 2) 北海道サービスセンター協議会との連携

- ・認知症介護実践研修及び認知症対応型サービス事業管理者研修の共催  
（函館／北見／帯広で開催予定）

### 3) 北海道認知症の人を支える家族の会

①賛助会員として加盟

4) 北海道担当部局との連携

5) その他団体との連携の推進